

## 2011年邦人犯罪被害概況

在メキシコ日本国大使館領事班

2012年1月

### 1 一般治安の現状

メキシコにおいては、カルデロン大統領の就任以降、麻薬等犯罪組織の取締りに力を入れる治安当局（警察・軍）と、これに抗する犯罪組織との衝突・報復、また犯罪組織間の抗争等により、国内治安が悪化している。

当地主要紙のレフォルマ紙によれば2011年の組織犯罪関係の殺人被害者数は12,366人に上り、2010年の11,583人を上回った。特に、フアレス市を擁するチワワ州、ヌエボ・レオン州、ゲレロ州、シナロア州で全体の半数を超え、引き続き、北部国境地帯の治安の悪化が顕著であるが、2010年は610人・第6位であったヌエボ・レオン州は1,789人で第2位になるなど、急激に治安が悪化した。

同種殺人事件はメキシコ市を含め全ての州で発生しており、メキシコ全土において麻薬組織の衝突に民間人が巻き添えになる可能性が危惧される。なお、本年は、未だ連邦政府による2011年年間の組織犯罪関係殺人被害者数の発表がされていないが、連邦検察庁が発表した昨年1月～9月の犠牲者数は12,903人であり、昨年同時期の11,583人を上回っており、年間の値を推計すると17,200人を超え、昨年の政府発表値である15,273人を大きく超えることが予想される。

一方、メキシコ市における一般犯罪の認知は、総数185,476件（前年比-10,058件、-5.1%）と減少した。殺人779件（同-32件、-3.9%）、強盗・窃盗92,185件（同-7,164件、-7.2%）、強姦1,162件（-119件、-9.3%）誘拐54件（-6件、-10%）と減少し、若干の治安改善がみられるが、住宅に対する強盗、ATMや銀行を利用後の強盗や詐欺は増加しており、路上強盗は1日あたり46件、自動車に対する強窃盗は1日あたり52.5件と高い水準で発生しており、当地での滞在や旅行には引き続き注意が必要である。

### 2 2011年の邦人被害の特徴

～前年比+2件で、ほぼ横ばい、銃撃事件や強盗致死事件が発生し犯罪が凶悪化～

- (1) 2007年以降、邦人被害は減少傾向が続いていたが、2010年の届け出受理総数は61件（前年比+8）と増加に転じ、2011年は63件で前年比+2件とほぼ横ばいの発生件数となった。
- (2) メキシコ市での被害は26件（全体の41.2%）で前年の33件から7件減少した。一方、地方における被害発生はメキシコ市以外の19州に及んでおり、地方拡散の傾向はさらに進んだ。

- (3) 窃盗被害は43件（全体の約68.3%）で前年比+5件と増加し、一般の強盗被害は13件と4件減少したが、強盗致死事件や強盗致傷事件、銃器を使用したカージャック事件が発生し、犯罪の凶悪化傾向がみられる。
- (4) 2011年2月、チワワ州フアレス市で、自動車に乗車中の邦人が銃撃される殺人未遂事件が発生した。

### 3 邦人犯罪被害の傾向

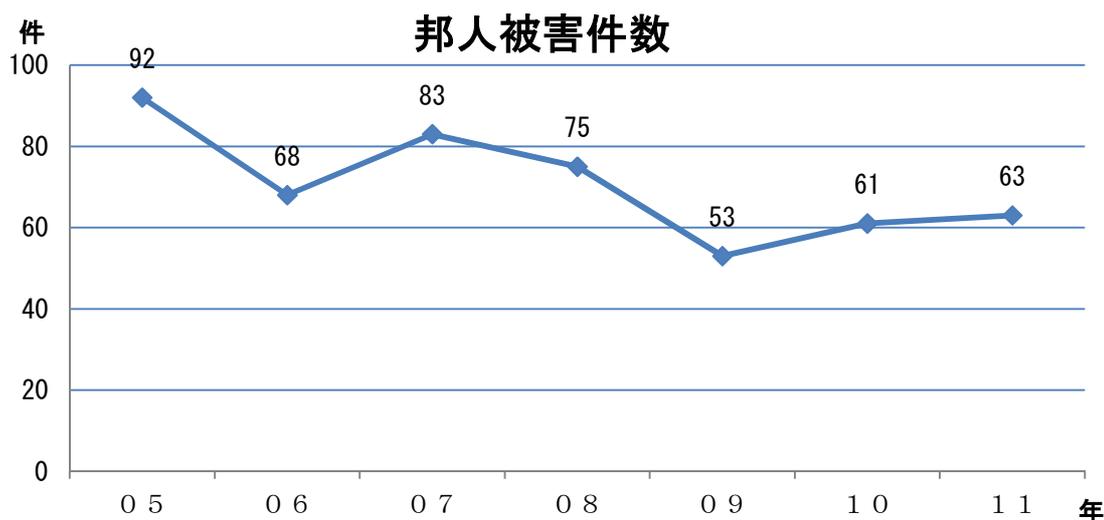
#### (1) 邦人被害届出件数

63件（前年比+2件）

2010年	61件
2009年	53件
2008年	75件
2007年	83件
2006年	68件
2005年	92件

2007年以降、減少傾向が続いていたが、一昨年に増加に転じ、2011年はほぼ横ばいとなった。ただし、2004年以前は、メキシコ市の空港・地下鉄等で邦人被害が多発し、年間100件を超える邦人被害が確認されていたところ、同時期に比較すれば、被害件数は低く維持されているといえる。

なお、本集計は、当館に届け出があった件数であり、被害の届け出が行われない潜在的被害も多数存在するものと思われ、実際の被害件数はこれよりも多いものと考えられる。



#### (2) 発生場所（地域）の傾向

##### ① 州別発生状況

在留邦人が最も多く居住するメキシコ市では、年間被害件数26件（前年比－7件）と減少した。

市内の地域別では、セントロ地域があるアウテモック区やデル・バジェ地域を擁するベニート・ファレス区やコヨアカン区での発生が多く、一般に在留邦人や旅行者が多く訪れる地域で被害に遭遇している。

また、2007年後半から、メキシコ市以外の地方都市での邦人被害が急激に増加し地方拡散の傾向が強まった。2011年は、地方での被害は、全体の約58.7%とメキシコ市での被害を上回り、州ごとの発生件数は1～5件と少ないが、被害の発生は19の州にわたり、地方拡散化の傾向はさらに進んだ。

州ごとの発生状況は次のとおり

メキシコ市	26件（前年比－7件，被害全体の約41.3%）
グアナフアト州	5件（同　＋2件）
ヌエボ・レオン州	4件（同　±0件）
キンタナ・ロー州	4件（同　＋1件）
アグアスカリエンテス州	4件（同　＋2件）
バハ・カリフォルニア州	2件（同　＋1件）
コアウイラ州	2件（同　±0件）
チアパス州	2件（同　＋1件）
チワワ州	2件（同　＋2件）
モレロス州	2件（同　＋2件）

以下、バハ・カリフォルニア・スル州，ドゥランゴ州，ハリスコ州，メキシコ州，ミチョアカン州，オアハカ州，ケレタロ州，サカテカス州，サン・ルイス・ポトシ州，ユカタン州各1件

## ② 場所形態別発生状況

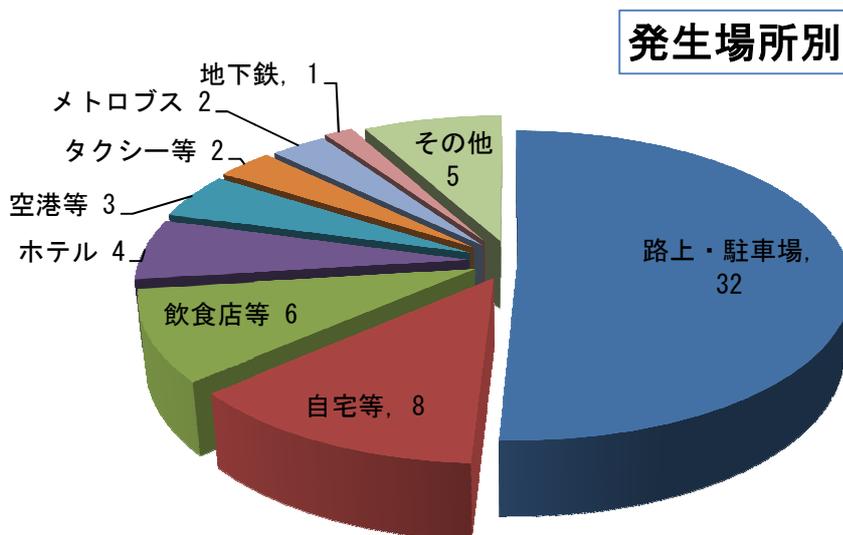
被害場所の形態別では、窃盗被害のうち車上狙いや置き引きがその多くを占めることから路上・駐車場等屋外での発生が最多となった。

その他は、自宅での被害，レストラン・バー等における飲食店・商店での被害が多く，タクシー（リブレ）やメトロブス等の交通機関での被害も発生した。また，公共交通機関では，比較的安全と考えられていたメトロ・ブスでの被害も2件（いずれもスリ被害）発生した。

被害場所形態ごとの発生状況は次のとおり。

路上，駐車場等屋外	32件（前年比＋8件）
自宅（駐車場を含む）	8件（同　－1件）
レストラン，バー等飲食店・商店	6件（同　－5件）
ホテル内	4件（同　＋1件）
空港・バスターミナル	3件（同　－1件）

ペセロ・マイクロ・タクシー	2件 (同	- 1件)
メトロ・バス	2件 (同	± 0件)
地下鉄 (構内含む)	1件 (同	- 1件)
その他 (場所不明等)	5件 (同	+ 3件)



### (3) 犯罪手口別の傾向

被害全体では窃盗が43件と最多であり全体の68.3%を占めている。凶悪な事件として、チワワ州フアレス市において、けん銃使用の殺人未遂事件が発生、ミチョアカン州ラサロ・カルデナス市において強盗致死事件、メキシコ市ソナ・ロサ地域及びアグアスカリエンテス市において強盗致傷事件が発生した。幸い、誘拐事件の発生はなかったが、安全な生活を脅かす恐喝被害が2件発生した。

強盗被害は致死・致傷を併せると16件と多発した。また、このうち8件がけん銃やナイフ等の凶器使用、3件路上での首絞め強盗、2件昏睡強盗がであり、自動車ごと強取るカージャック事件も2件(うち1件は未遂)発生した。強盗事件の多発は、当地の一般治安の悪化を示唆していると考えられる。

空き巣、車上狙い、置き引き等の窃盗被害は、地域に関わらず全国各地で発生している。

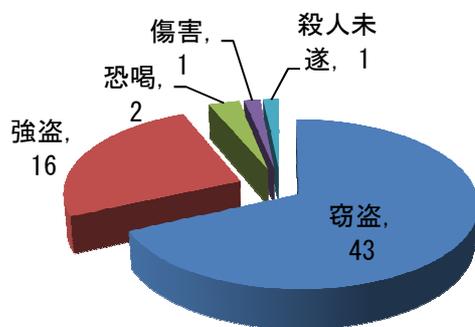
盗難の特異な例として、腕時計をしていない被害者に時間を尋ね、時間を確認するためiPhone等の高価な携帯電話を取り出したところを狙って、同電話機を奪い取る手口の詐欺盗事件や強盗事件が発生した。

犯罪手口別の発生状況は次のとおり。

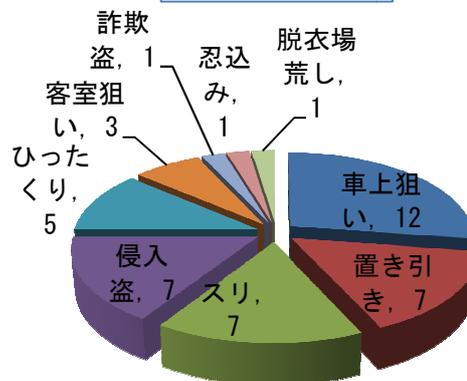
殺人未遂	1件	(前年比+1件)
------	----	----------

誘拐	0件	(同 ±0件)
強盗致死	1件	(同 +1件)
強盗致傷	3件	(同 +3件)
強盗	17件	(同 +10件)
うち、凶器使用	8件	(同 -1件)
恐喝	2件	(同 -1件)
窃盗	43件	(同 +5件)
うち、空き巣等、家屋への侵入窃盗	7件	(同 ±0件)
置引き	7件	(同 -3件)
車上ねらい	12件	(同 +3件)
スリ	7件	(同 -1件)
ひったくり	5件	(同 +3件)
自動車窃盗	0件	(同 -1件)
客室狙い	3件	(同 +3件)
脱衣場荒らし	1件	(同 +1件)
詐欺盗	1件	(同 +1件)

### 被害の種類別



### 窃盗手口別



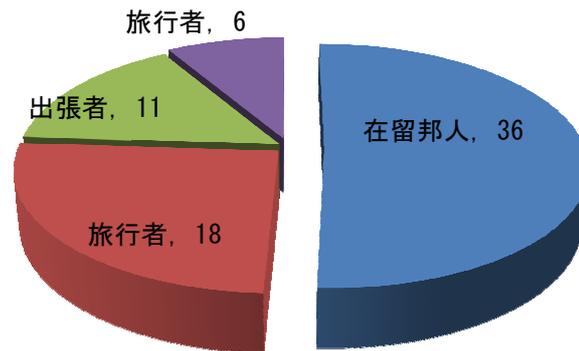
#### (4) 被害者別の傾向

被害全体で前年比+2件であるのに対し、在留邦人の被害は-2人と減少し、被害増加の要因は旅行者、出張者の被害増加によるものと認められ、在留邦人の防犯意識は比較的高いものと思料される。出張者の被害が7件増加したことら、出張者の受け入れに際しては、受け入れ側が出張者に対し、十分な安全指導をする必要が認められる。

被害者別の発生状況は次のとおり。

在留邦人	36人	(前年比 -2人)
旅行者	18人	(同 +5人)
出張者	11人	(同 +7人)
留学生	6人	(同 ±0人)

### 被害者別



以上